

学 年	教科等	単元(題材)名	日 時
第 6 学年	社会科	世界の未来と日本の役割 (第 6 時)	令和 8 年 2 月 6 日(金)

### 1 本時の目標

これまで学習したことを基に、ルワンダ共和国における課題に対して、今後、我が国が果たすべき役割や責任について多角的に考え、表現することができる。

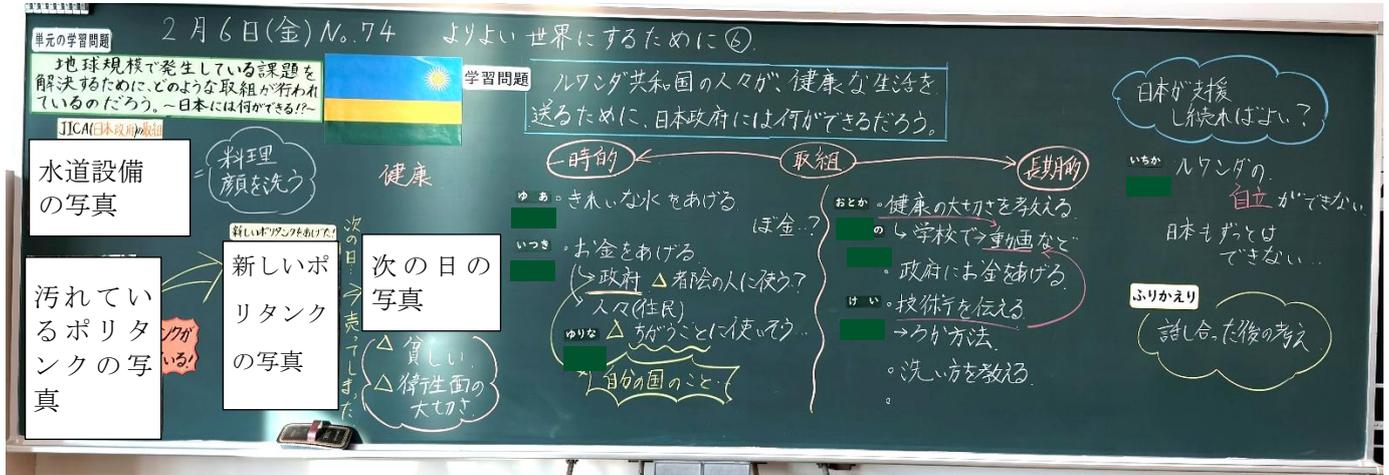
### 2 指導過程

学習活動及び学習内容 (★は評価にかかわるもの)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <p>○ ルワンダ共和国における課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水道設備を整えても、汚れたポリタンクを使っている。 </div> <p>○ JICA の人の話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい容器を渡したけれど、使わずに売ってしまったよ。」</li> </ul> <p>○ 課題の背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧しい家庭環境</li> <li>・ 衛生面への意識の低さ</li> </ul> <p>○ 本時の学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ルワンダ共和国の人々が、安全な生活を送るために、日本政府には何ができるだろう。 </div>	<p>○ JICA の人に、実際に新しい容器を渡した結果、使わずに売ってしまったという事実を伝えてもらうことで、課題の背景に気づき、解決策を考えたいという思いをもつことができるようにする。</p> <p>○ 「これまでの課題をどのように解決していたか。」と問うことで、前時までの学習に立ち返り、「日本政府」の立場からできることを考える必要性に気付くことができるようにする。</p>
<p>2 ルワンダ共和国における課題に対して、今後、日本が果たすべき役割や責任について考える。</p> <p>○ 話し合う前の考え (例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリタンクを買えるようにお金をあげる。</li> <li>・ 安全な水を使うことの大切さを教える。 等</li> </ul> </div>	<p>○ 「ルワンダ共和国の人々はどのように考えるか。」と問うことで、援助や協力を必要とするルワンダ共和国の人々の立場を考慮して課題の解決策について考えることができるようにする。</p>
<p>3 ルワンダ共和国における課題に対して、今後、日本が果たすべき役割や責任について話し合う。(★)</p> <p>○ ルワンダ共和国における課題の解決策 (例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリタンクを買えるようにお金をあげればよいと思うな。</li> <li>・ でも、お金を渡すだけでは、他のことに使ってしまうのではないかな。</li> <li>・ JICA の取組で、学校を建てていたから、子どもに教育をすることも大切なのかな。</li> <li>・ その学校で、安全な水を使うと、病気になりにくいことを教えたらよいのではないかな。</li> <li>・ ルワンダ共和国の人々も自分たちで課題を解決できるようになって嬉しいのではないかな。 等</li> </ul> </div>	<p>○ 「日本が援助し続けることがよいのか。」と問うことで、ルワンダ共和国の人々の力で課題を解決できるようになる必要があることに気づき、「持続可能性」の視点から解決策を考えることができるようにする。</p>
<p>4 本時の学習をふりかえる。</p> <p>○ 話し合い後の考え (例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本には、ポリタンクを買えるようにお金を渡すだけでなく、学校を建てたり、安全な水を使うことの大切さを教えたりすることができる。</li> <li>・ 日本は、ルワンダ共和国の人々がこれから先も自分たちで課題を解決できるように、学校で教えることも伝えていくことができる。 等</li> </ul> </div> <p>○ ふりかえりの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な立場から考えているか</li> <li>・ 持続可能な解決方法か</li> </ul>	<p>○ 話し合い後の考えを記述する時間を設定することで、「日本政府」や「ルワンダ共和国の人々」の立場から自分の考えを見つめ直したり、再構成したりすることができるようにする。</p> <p>○ 左記の視点でふりかえりを交流するよう促すことで、再構成した自分や仲間の考えの妥当性について助言し合ったり、日本の果たすべき役割等に対する考えの深まりに気付いたりすることができるようにする。</p>

### 3 本時の評価規準

学習したこと等を基に、ルワンダ共和国における課題に対して、我が国が果たすべき役割や責任について、「日本」や「ルワンダ共和国の人々」の立場、「持続可能性」の視点から考え、話し合ったり記述したりしている。(思考・判断・表現)【発言分析・記述分析】

### 4 板書



### 5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 島崎 博英 指導主事

- 研究内容(1)において、「社会科の言葉」を設定していたが、これは学習指導要領の「社会的事象の見方・考え方」に加え、さらに広範囲の視点を含むものであった。社会科において社会的事象の見方・考え方を働かせることは常に求められていることであるため、今後も大切にしてほしい。
- 研究内容(2)については、ふりかえりの時間に、単元を貫く学習問題に立ち返って記述する子どもの姿が見られた。また、理解度や納得度を数値化することで、子ども同士で数値を比較したり理由を尋ねたりするなど、交流しやすくなっていると感じた。ただし、ふりかえりはあくまでも自己評価であるため、成績評価に生かす際には、さらに手立てが必要になる。
- 単元構成として、選択・判断させるための材料や思考の土台を本時までで概ね構築することができていた。しかし、「日本政府には何ができるか」という学習問題に対し、子どもの思考が「このまま支援を続けることは、日本には難しいのではないか」という懸念に向かった。学習問題と答えの整合性が取れているか疑問である。どのような支援ができるかを結論として考えさせるとよかったのではないか。

### 6 考察

#### 【研究内容1：社会的事象を多角的に考えるための手立て】

本時では、ルワンダ共和国における貧困や衛生面の課題に対して、今後、日本が果たすべき役割や責任について話し合う場面を意図的に設定した。そうすることで、「取組」について、「日本」や「ルワンダ共和国の人々」、「ルワンダ共和国の政府」の立場、「一時的」か「長期的」な視点から、仲間の考えと比較したり関連付けたりしながら話し合う姿が見られた。一方で、「日本が支援をし続けることがよいのか。」と発問したことで、子どもの思考が「このまま支援をし続けることは日本には難しいのではないのか。」という懸念に向かったため、「日本政府には何ができるか」という学習問題と答えの整合性が見られなかった。また、自分の考えの根拠を示しながら発言する姿が見られなかった。本時のねらいや、これまでに蓄積した資料を根拠として活用できる学習問題の設定を考える必要があった。

#### 【研究内容2：自らふりかえりを行うための手立て】

本時では、学習問題について、話し合い後の考えを記述する時間を設定したことで、「日本政府」の立場や「一時的」な視点から考えていた子どもが、「ルワンダ共和国の人々」や「ルワンダ共和国の政府」の立場、「長期的」な視点から、自分の考えを見つめ直したり再構成したりする姿が見られた。一方で、ふりかえりを交流する時間を十分に確保することができなかつたため、互いの考えを価値付け合ったり、評価し合ったりする姿が見られなかった。ふりかえりを記述するだけに留まるのではなく、仲間とふりかえりを共有するよさを実感するための手立てが必要であった。